

アントロポゾフィー看護を学ぶ看護職の会

2018. 6月 初夏号

初夏の陽射しがまぶしい日々です。会員の皆様は、いかがお過ごしでしょうか。昨年度、皆様から寄せられたご意見を反映する形で、『会員の自主的な活動に対する助成金』を開設いたしました。この事業は、会員の皆様が、アントロポゾフィー看護の普及に寄与する活動、アントロポゾフィー看護を用いて行う社会貢献活動、アントロポゾフィー看護の研究及び学びの場作りなどを行うことを助成し、会員活動の活発化、会員のアントロポゾフィー看護への意欲の向上を目的としています。助成金をご希望の方は、事前に所定の申請用紙に必要事項をご記入の上、8月末までに事務局にご提出下さい。昨年度、この助成金で活動された皆様から、ご報告をいただき本号に掲載致しました。

アントロポゾフィー看護を学ぶ看護職の会 運営委員一同

『リズムカルアインライビングと私』

阿部 一子

リズムカルアインライビング（以下 RE）との出会いは、私の看護職としての人生を大きく変えたといっても過言ではありません。助産師となって、総合病院、地域の保健活動、助産院、と活動の場は変遷しても、常に私の看護の対象は、主に母子でした。それが、老若男女を問わず、大げさに言えば、全人類となったわけです。RE を学び、これを使って、何かお役にたてることはないかと、活動を始めました。

私の活動の場は、ほとんどが、いわゆるアントロポゾフィーの関連のところではありません。職場が、アントロポゾフィーの関係ではなく、RE の施術認定は受けたものの、今後活動をどのようにすれば良いのか迷っていらっしゃる会員の方に（前回の実態調査では、1期生では、年間をとおして1回も施術していない認定施術者は13名、9件以下は3名、2期生では年間0件が2名、9件以下が、10名でした。少し心配しています。）

一歩少し早く歩み出した者として、日常の活動をお伝えし、皆様の参考になればとここにご報告いたします。

*元ハンセン病の方への RE

RE の施術を受けた時、包まれる安堵感、自己肯定感、深い安らぎを感じ、これをハンセン病の方に届けたいと思いました。ハンセン病の患者さん

は、何世紀にもわたり差別や偏見に苦しみ、人としての尊厳を踏みにじられてきた人々です。我が身と思えば耐えられないことです。療養所の入居者の平均年齢が、83歳、私は65年間も同じ時代を生きてきたわけです。何か私自身に出来ることはないかと思いながらも、何の手立ても無く、時が流れていました。

多摩の国立ハンセン病療養所や、患者会等にボランティアとして活動したいと申し出ましたが、なかなか受け入れられず、直接会おうしかない、施設の祭りに参加し（その時は1期生の4人の仲間に協力いただきました）、一人の元患者さんに出会い、そこから活動が始まりました。申し出てから2年以上かかりました。

最初の計画では、定期的に訪問してつながりの中で、何人かの RE ができればと思っていましたが、お話をお聞きするのにたくさんの時間を必要とします。午前中に伺い、昼食を共にし、施術を行い夕方帰るといったスケジュールで行っています。1日にお一人、ゆっくりした時間をとっています。先方の体調やこちらのスケジュール調整もあり、年間何回かくらいしか伺えませんが、訪問と施術をととても喜んでくださって、私自身も何倍もの喜びをいただいて帰ってきます。初めて伺った時、私の施術が、喜んでいただけるのか本当に心配でした。祈るような気持ちで、彼女の背中に向き合いました。施術後「こんないい気持ちは、

生まれて初めてです。神様、明日死んでもいいです」ととても喜んでくださって、ほっとしたことを今でも鮮明に覚えています。

* 東日本大震災の被災者の方への支援

震災後、初めて東北に向かったのは、1ヶ月後のことでした。言葉も出ないほどの現地の惨状に足浴、RE とケアを通して私たちの気持ちを伝えました。当初は1~2ヶ月に一度、今は3ヶ月に1度位の割合で伺っています。

* 出身校の学園祭での RE

学園祭の来場者に、手と背中での施術を行っています。毎年好評で施術後、リラックスして机にうつぶして眠られる方もすくなくありません。受けていただいた方や看護科の学生さんや、先生方にパンフレット等を配布しています。アントロポゾフィー看護の広報に良い機会になっているのではないかと思います。

現在は、同じ1期生の藤井さんとおこなっていますが、希望の方が多く、あと2名位お手伝いの方がいてくださると助かるのですが、参加資格は卒業生のみということになっています。卒業生でなくても施術認定者なら、参加可能となるように今年も提案してみます。ソフィア祭の開催日は、毎年決まっています、5月第4日曜日10時~3時30分です。場所は、都内の四谷の上智大学1号館103号室です。正面の門をはいってすぐの右側の建物、今年も5月27日(日)に、開催されます。お時間あれば、覗きに來てください。大歓迎です。

* 地域の保健センターでの RE

地域の保健センターでの健康まつりに参加し、地域の皆さんに体験をしていただいています。

* 産後ケアとして

産後ケア事業に公的な予算がつくことになりました。対象は、産後において家族等から育児等の援助がうけられず心身の不調または、育児不安がある母親に対しての心身のケアです。3つの市町村と話し合いを持ちましたが、そのうち1つの市町

村ですが、ケアとして、RE も対象になりました。6月から実施予定です。

* 日常の仕事に疲労困憊の医療従事者

* お身内を亡くされた方へ

* 体調を崩している方へ

* ご家族の入院で、疲労している家族

* 虐待を受けていた子供へ(この活動は、まだ扉の前に立った段階です。慎重に取り組んでいきたいと思っています。)

私の活動の場は、アントロポゾフィーの医療施設ではありませんので、医師や、療法士の方と連携を組んで、医療として RE を施術することは、医師からの依頼がある場合以外は、ほとんどありません。ただ自分の周りを見渡すと RE の必要な方は、たくさんいらっしゃることに気づきます。気になった方には、なるべく声をかけて施術を受けていただくように心がけています。ボランティアのこともありますし、それが仕事につながることもあります。

いずれにしても、大きな学びがあり、つぎの活動への原動力になります。アントロポゾフィーが、実学であることが実践を以って認識できます。先日も、乳房ケアの患者さんのお母様が、あまりにもお疲れの様子だったので、RE を受けていただきました。その後患者さんから、「母の様子が変わり、何十年来の強い気性が、なんだか柔和になり、父も、私も子供達も楽になりました。これからも続けて欲しい」と言われ、その後定期的に受けていただいています。時々、施術後の変化に驚くことがあります。

アントロポゾフィーの学びは、難解で言葉の壁もあり時には挫折してしまいそうになります。最近「愛によりて真理へ」という45年近く前に学んだ母校の校訓を思い出しています。愛によりてということは、行為すること。

知識としての頭からの学びでなく、行為する(看護する)ことによって、ケアを通して、真理に近づく道もあると実感しています。まずは、目の前の人から、はじめてみませんか?!そこから世界

が広がっていきます。

(看護職の会の、会員のボランティア活動について、事前に申請し認可が下りれば、年度内の予算の範囲で社会貢献活動として、交通費等応援していただけることは、ありがたいことです。)

***赤色が、助成金対象事業**

『小笠原でのリズムカルアインライビング』

千田恵子

2017年3月と11月に小笠原諸島の父島と母島でリズムカルアインライビング(以下RE)の施術を実施しました。3月については看護職の会の助成金をいただきました。

小笠原村は東京都ですが、竹芝桟橋から船で24時間、海外に出かけるよりも遠い地域です。この度、小笠原に行くことになったのは、数年前から小笠原診療所に年に数回出向されているT医師の声掛けでした。小笠原にはシュタイナー教育に関心のある方が多く、REの施術依頼をいただきました。

初めての小笠原諸島父島と母島、以前から一度は訪ねてみたいところの一つでした。幸い行き船はそれほど揺れることはなく、海の眺めを楽しみながらの航海でした。父島の海と空の青さは素晴らしく、慌ただしい日常から離れて施術に専念できる3泊4日で、Mさんの案内で、お宅を訪問しての施術でした。シュタイナー教育は知っていたが、医療や看護もあることは知らなかった方が大半で、島での暮らしのことなどのお話を伺いながら、アントロポゾフィー医療や看護のこと、REのことをお伝えして施術を受けていただきました。皆さん、楽しみにされていたようで、20分ほどの休息のあとはお顔の色もほんのり桜色で柔らかな表情になっておられて、ほっとするひとときもっていただきました。父島で2泊のあと、船で2時間の母島にもわたり1泊して、そこでも施術をうけていただき、合計14名の方にREを体験いただきました。

島で暮らされている方々は、多くは内地から移住されていたり、仕事の関係で来られている方も

多いです。心身の安らぎを感じるREの体験ができたことを喜んでいただき、私も訪ねることができ、皆さんとの出会いを嬉しく思います。

この施術については有料での実施でしたが、渡航費や滞在費の一部を「会員の活動に関する助成金」から補助をいただきました。簡単ではありませんが、ここにご報告させていただきます。ありがとうございました。

『2017年2月19日 R アインライビング体験会開催』

李真美

京田辺社会福祉センターにて「体験会」とし、10名の被験者に全身の施術を行いました。久保さんに素敵なフライヤーを作っていただき、京田辺シュタイナー学校の保護者を中心としたMLに情報を提供していきました。2週間をかけて12名程度の応募がありました。

リズムカルアインライビングは、アントロポゾフィー医学の中のひとつの施術法として紹介していきました。効果、リラクゼーションについて短時間で説明しましたが、中々具体的な説明に苦慮していました。施術者4名、施術前後にアンケートと会計管理をする事務方1名の体制で5時間をかけて行いました。全身の施術と部分の施術の希望をお聞きしましたが、全員が全身の施術を希望されました。全くの初体験の方あり、以前に1~2度の体験あり、2期生の私たちのモデルとして協力していただいた体験者あり、治療の一環として7回以上の施術経験のある方あり、様々な状況の体験者の方たちの集まりとなりました。

15分の足湯、30分の全身の施術、15分の休息と、ひとり1時間を予定として2台のベッドで対応して行いました。前後のアンケート記入に少々時間を取られたため、少しずつ時間が押していったのです。アンケートの結果はおおむね好意的な反応をいただきました。施術者は4人でした。が、足湯の準備、ベッドの整頓、タオル類の交換などなど、計画していた予定時間は余裕を見ていたつもりでしたが結果、ややきつめの計画になってしまいました。

施術料の設定を1000円にしましたので、大幅な赤字にはならず少し助成金をいただきました。

『大阪府豊中市 千里ペインクリニック』

濱咲聡子

千里ペインクリニック主催の市民公開講座において、リズムカルアインライブングの体験会を行い、一般市民ならびにクリニックに勤務する看護師に紹介しました。

去る3月10日に、「一般社団法人日本アントロポゾフィー医学の医師会」との共催で『第6回アントロポゾフィー医療研究発表会』を開催いたしました。参加された、会員の山本寿恵さんから感想をいただきました。

第6回アントロポゾフィー医療研究発表会に参加して

山本寿恵

今回、第6回アントロポゾフィー医療研究発表会に参加させていただき、全体を通して感じたことは、このような医療がもっと発展して欲しいと思いました。また、どの発表もその真意はとても深いものと感じたので、個人的にはもう少し時間配分があっても良いのではないかと思います。

リズムカルアインライブング（以下RE）の症例発表では、関わる施術者の優しさ、あたたかさ、安心できる空間とクライアントの変化を感じました。またエーテル体とは何か？リズムとは何か？自分の中で認識が曖昧なことを改めて実感しました。REという手技が実際どのようなものなのか？男性と女性では気の流れが違っていると教わったことがあるのですが、実際はどうなのか？などの疑問が浮上してきたりもしました。エーテル体に作用する施術は他にも色々あると思いますが、アロマセラピーなどとの違いなども含めて、今後、看護師としては学んでみたいと思いました。

アントロポゾフィーのセミナーに参加すると、私はいつも幸せな気持ちを持ち帰らせて頂くのですが、それは何故だろうと考えました。一般の病院でも精神的な部分も重要視するようになり、様々なセラピーも増え、チームワークも良く、患者主体の医療と進化しています。アントロポゾフィー医療では、上記は勿論、人間とは何か？を霊的なこと、カルマや惑星のことも含めて、より深

くそして科学的にも原因検索しようとしている点、また、これまで地道に学び実践し続けている先生方の魅力が、とても大きな要因ではないかと思いました。

年1回でもこのような場があることで、お互いの専門性をより理解でき、信頼し、情報を共有することで、今ある課題を明確にできます。

周囲の医療従事者、家族や友人にも、教えてあげたい、一緒に学びたいと思いますが、何故、そう思うのか？自分の内面にも問いながら、今後もこのような学びに参加させていただければと思います。

【予告】

『第3期看護ゼミナール紹介&リズムカルアインライブング体験会』の開催

北海道で8月に開催予定です。詳細が決まり次第広報いたしますが、お問い合わせは、以下まで。

anthro-nr@rel-int.jpn.org（看護職の会事務局）

FAX: 050-3415-3190

アントロポゾフィー看護を学ぶ看護職の会

<http://www.anthro-nr.jpn.org/>

e-mail : anthro-nr@rel-int.jpn.org

会員の皆様からの投稿を随時募集しています

【編集部より】
編集部・村上典子
※この情報は会員の皆様と共に作りあげる機関紙として有機的つながりを大切にしたいと考えています。